

青少年赤十字指導案集 CD版

すぐに役立つ108

- 全国108のさまざまな実践例！
- 検索機能を充実！（便利なキーワード検索）
- データがすぐに活用できる！



学 習 資 料

人道とは 3年 番氏名

人道って何だろう？ 人道の敵とは？

人道ってどういう意味だろう？人間の尊厳ってなに？
人道の敵は私たちの心の中にないだろうか？

赤十字の基本原則

人道	Humanity
公平	Impartiality
中立	Neutrality
独立	Independence
奉仕	Voluntary Service

■赤十字とは？
赤十字は「人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性」という7つの普遍的な原則のもとに、世界最大のネットワークを駆使し、行動する人道機関です。これからの、国境、宗教、人種を超えて、人の命の尊厳を守るため、様々な人道的活動を推進します。

■人道とは？
赤十字は、戦火の中で、災害の地で、「人間が人間らしく生きるために、平和で健康的な暮らしを維持する」ために、あらゆる努力を尽くします。そして、いつの時代も、世界に人々の苦痛がある限り、人道の名のもとに行動し、人間の平和と人々の心に、希望の光をともす存在でありつづけます。つまり、人間を人間として尊重する（人間の尊厳を守る）ために行動している赤十字の基本方針が人道です。

■国際人道法とは？
武力紛争（戦争）において、負傷したり病気になった兵士、捕虜、そして武器を持たない一般市民の人道的な扱いを定めた国際法です。国際法は、条約と慣習法から成ります。条約は存在しますが、慣習法は存在し、その趣旨が広く受け入れられています。これを「人道法」といいます。人道法は、戦争や紛争の際に、人々の生命と健康を守るためのルールです。人道法は、戦争や紛争の際に、人々の生命と健康を守るためのルールです。人道法は、戦争や紛争の際に、人々の生命と健康を守るためのルールです。

導入	・人道法の基本原則（人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性）をキーワードで検索し、実践例を探る。 めあて 今日は違う視点から人道について学びましょう。	○他と比べて進んでいることで良かったことや困ったことを考えよう <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">進んでいる</td> <td style="width: 33%;">良かった</td> <td style="width: 33%;">困った</td> </tr> <tr> <td style="height: 100px;"></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	進んでいる	良かった	困った				・班活動
進んでいる	良かった	困った							
展開	・違うことによって良かったこと、困ったことを知る								
発展	・進んでいるとなぜ困るのか原因を探る。	○進んでいるとなぜ困るのか？ ↓ いやな気がする・差別へとつながる	・班活動						
整理	まとめ 一人一人同じ事・同じところがあると同時に違うことや違うところもある	違うことがいけないのか？							



二つの趣旨が、よく知られていないことを、ことごとく忘れられるスライムのような思い、足といふ心をは





はじめに



青少年赤十字の始まりは大正11年（1922年）、赤十字社連盟総会での青少年赤十字創設の決議にさかのぼりますが、日本においては現在に至るまで、一貫してその活動は学校教育の中で行われてきました。

現在、青少年赤十字を取り入れている学校は1万校を超え、260万人の児童、生徒がメンバーとなり、指導する先生方は14万人を超えています。青少年赤十字は日常の実践活動を通じて、いのちと健康の大切さを理解し、一人ひとりの人間を尊重できる青少年の育成を目的とし、その活動にあたっては児童、生徒自らが「気づき・考え・実行する」ことを態度目標に掲げています。同時にこれらは時代の強いニーズにより、学校教育の目標としてもその実現が期待されるところであり、その目標を具体的に達成する1つの方法として青少年赤十字は多くの学校に受け入れられています。

この『青少年赤十字指導案集 CD版 すぐに役立つ108』は全国各地の学校から、すぐに実践に活用できる指導案を収集したものです。この中には青少年赤十字が目指す実践目標である「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」を中心に、豊富なテーマによる数多くの事例が、先生方の活用しやすい指導案という形で提案されています。また戦争や紛争という極限の中でも人間の命と尊厳を守るためのルールとしての国際人道法は、日常生活の中でも生かされることが多く、本CDの中にも多くの指導案が含まれています。

全国各地で実践されているものであるため、極めて地域性の高いものもありますが、あえて原本に修正を加えず収録しております。利用者が作者の意図を汲み取り、自らの状況に合わせた活用をしていただくことを意図しております。

本CDは多くの先生方からの事例のご提供と、編集委員の先生方のご尽力により取りまとめることができました。先生方のご努力と熱意に深く感謝申し上げますとともに、本CDが青少年赤十字を取り入れている学校はもちろん、広く学校教育関係者にもご活用いただけることを願っております。

平成21年3月

日本赤十字社



目次

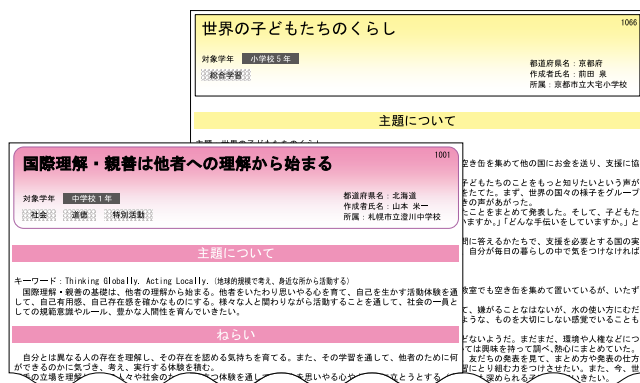


「青少年赤十字指導案集 CD版」の特徴	1
使い方ガイド	2
掲載事例について	5
掲載事例の紹介（18案）	6
編集委員一覧	24
日本赤十字社 本社・支部一覧	24

『青少年赤十字指導案集 CD版 すぐに役立つ108』の特徴

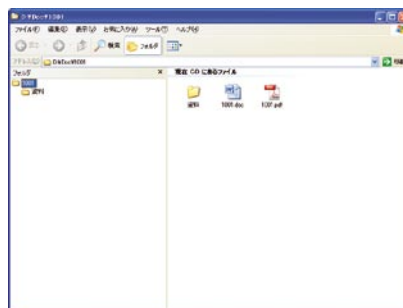
☆全国108のさまざまな実践例！本冊子にも一部掲載

青少年赤十字の実践目標や「国際人道法」など豊富なテーマにわたった事例が掲載されており、また、それらを実践する場として「教科学習」「特別活動」「学級運営」など活用方法についても広範な参照が可能です。



☆データがすぐに活用できる！

すぐに活用したい指導案例については、PDFファイルとともに、ワード、エクセル、パワーポイント、画像ファイルなどによる元ファイルが添付されているものが多く、自分の学校、学級にあった指導案に加工しやすくなっています。



⚠ 指導案を加工される場合は、ご自身の指導に活用される場合のみに限定することとし、元データあるいは一部加工されたデータを元データ提供者の許可なく一般の公開等にご供することはご遠慮ください。

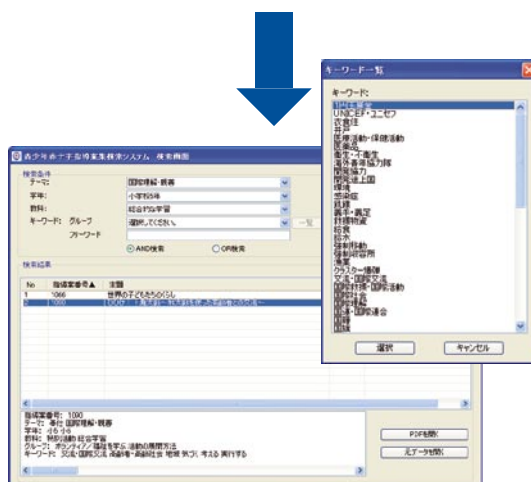
☆検索機能が充実！

「テーマ」「学年」「教科」のほか、キーワード検索も導入し、108の指導案の中から、AND検索、OR検索により参照したい内容を容易に絞り込むことができます。

☆便利なキーワード検索！

キーワードは裏表紙にも掲載

108の指導案内容にかかわりのある所定のキーワードを指定することで、つながりのある指導案のリストをすばやく呼び出すことができます。また、フリーワード検索も可能です（裏表紙のキーワードリストから、前方一致検索で検索可能）。



使い方ガイド

指導案は本冊子25ページに貼付されているCD-R内に所収されています。下記の操作マニュアルを参照の上、ご活用ください。

操作マニュアル

(1)メインメニュー

「青少年赤十字指導案集 CD版 すぐに役立つ108」のCDをパソコンに入れると、図1のメインメニューが自動で表示されます。

1-1. スタートする

「起動する」ボタンをマウスでクリックすると、検索画面（図2）が表示されます。

1-2. 終了する

メインメニューを閉じる場合は「終了する」ボタンをクリック、または画面右上の✕ボタンをクリック、または画面左上の🏠ボタンをダブルクリックします（短縮キー：Alt+F4）。

※メインメニューが自動で表示されない場合は、エクスプローラ等からCD-ROMドライブを表示し、「DocSearch.exe」というファイルをダブルクリックしてください。

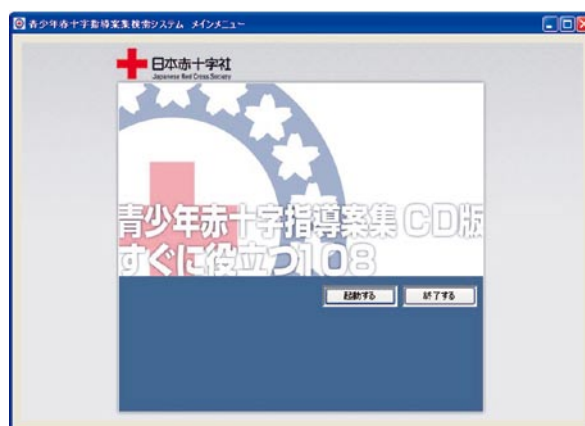


図1

(2)検索画面

検索画面の初期表示は、全ての指導案が画面中央の「検索結果」にリスト表示されています（図2）。画面上部の「検索条件」を指定することにより、特定の指導案を絞り込んでリスト表示することができます。

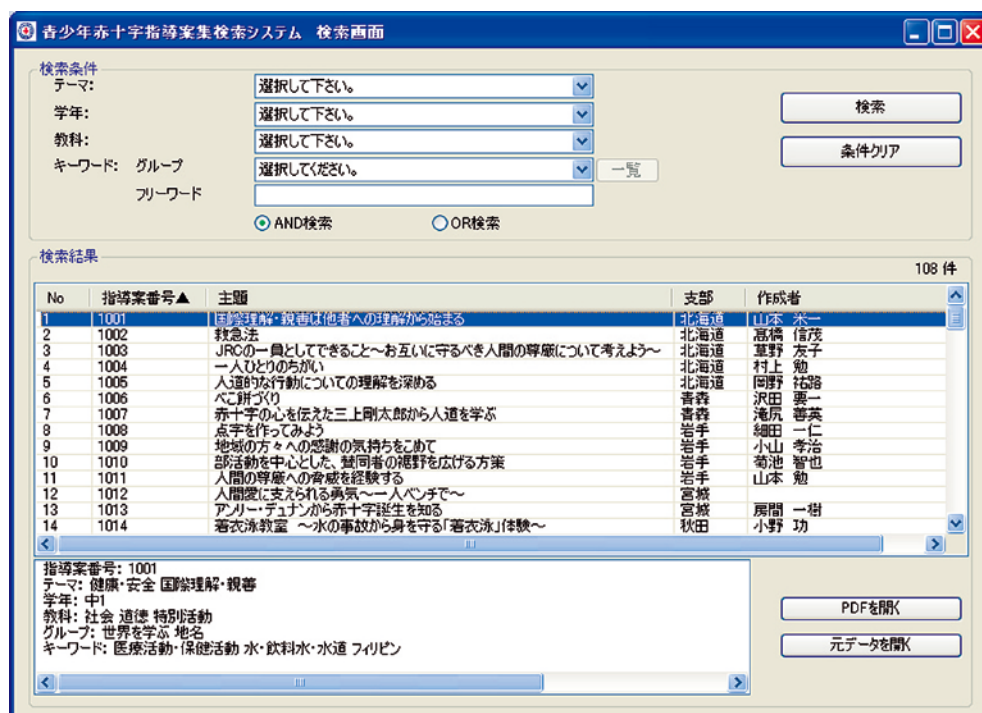


図2

2-1. 検索条件の指定

2-1-1. 検索条件

検索条件として[テーマ]、[学年]、[教科]、[キーワード：グループ]、[キーワード：フリーワード]の指定が可能です。

2-1-2. [テーマ]、[学年]、[教科]、[キーワード：グループ]

左記の条件についてはプルダウンリストから検索条件を選択します。(図3)

2-1-3. [キーワード]

キーワードについては、[キーワード：グループ]から検索条件を選択するか、[キーワード：フリーワード]のテキストボックスに直接キーワードを入力します。

2-1-4. キーワード選択

[キーワード：グループ]を選択すると、[一覧]ボタンが使用可能となります。[一覧]ボタンをクリックすると、選択したグループに紐づくキーワードの一覧画面(図4)が表示されます。キーワード一覧から目的のキーワードを行選択して[選択]ボタンをクリックすると、検索画面(図2)[キーワード：フリーワード]欄に選択したキーワードが上書き入力されます(前に入力していた文字はクリアされます)。

* 「キャンセル」ボタン、または画面右上の✕ボタンをクリックすると、何もしないで画面を閉じます。

* [キーワード：フリーワード]は前方一致検索です。([キーワード：フリーワード]に「国際人道法」と入力した場合、「国際人道法ワークブック」、「国際人道法入門(ビデオ)」といったキーワードを対象として検索します。)

2-1-5. [AND検索]と[OR検索]

[AND検索]を選択した場合は、指定した検索条件の各項目と全て一致する指導案が検索されます。一方、[OR検索]を選択した場合は、指定した検索条件の各項目のうち一つ以上一致する指導案が検索されます。

2-1-6. 検索条件を指定しない

条件を指定しない場合は、プルダウンリストでは「選択して下さい。」を選択(初期設定)、[キーワード：フリーワード]のテキストボックスでは空白としてください。

* [条件クリア]ボタンをクリックすると、検索画面の初期表示の状態(図2)に戻ります。

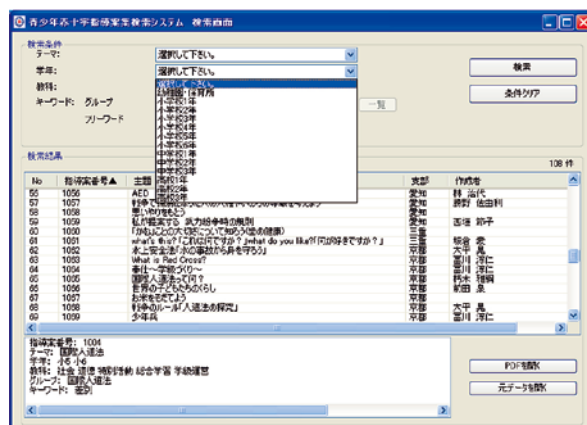


図3

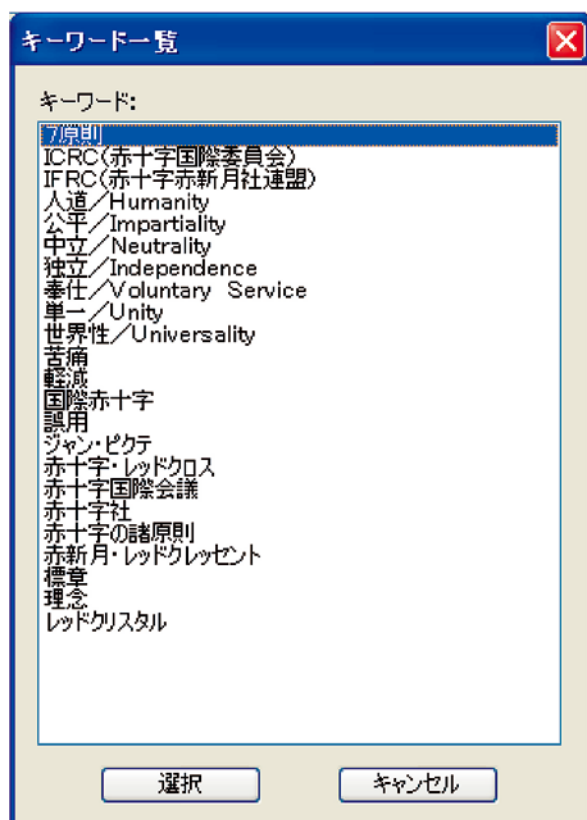


図4

2-2. 検索結果の表示

検索条件を指定して[検索]ボタンを押すと、条件に一致する指導案の一覧が[検索結果リスト](図2)に表示されます。

2-2-1. 詳細情報の表示

[検索結果リスト]をマウスで行選択すると、検索結果リストの下にある[詳細情報ボックス]に選択された指導案の詳細情報が表示されます。

2-2-2. リストの並べ替え

検索結果リストの指導案番号での並べ替えを行うには、タイトル部分をクリックします。
(▲：昇順並べ替え ▼：降順並べ替え)

2-2-3. 一致する指導案がない場合

検索条件に一致する指導案が見つからない場合、「検索結果がありません。」のメッセージが表示され、右下の「PDFを開く」、[元データを開く] ボタンは使用できなくなります。

2-3. PDFファイル、元データの表示

「検索結果リスト」から目的の指導案を行選択して、「PDFを開く」ボタンをクリックすると選択した指導案のPDFファイルを開くことができます。また「元データを開く」ボタンをクリックすると、選択した指導案ファイルが保存されているフォルダを開くことができます。

2-3-1. PDFで参照する

「PDFを開く」ボタンをクリックすると、「PDFを開く」ダイアログボックスが表示され、PDFファイルを直接開くか、ファイルを保存するかを選択することができます。

- *PDFファイルを表示するにはパソコンに“Adobe Reader”がインストールされている必要があります。(Adobe Readerのサイト(<http://get.adobe.com/jp/reader/>)から無料ダウンロードできます。)

2-3-2. 元データで参照する

「元データを開く」ボタンをクリックすると、選択した指導案ファイルが保存されているフォルダを開くことができます(図5)。

- *PDF以外の形式で保存されているファイルは、バージョン等の違いから、正しく表示されない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- *指導案を加工される場合は、ご自身の指導に活用される場合に限定することとし、元データあるいは一部加工されたデータを元データ提供者の許可なく一般の公開等に供することはご遠慮ください。

2-3-3. メインメニューに戻る

画面右上の[閉]ボタンをクリック、または、画面左上の[ホーム]ボタンをダブルクリックすると、メインメニューに戻ります(短縮キー: Alt+F4)。

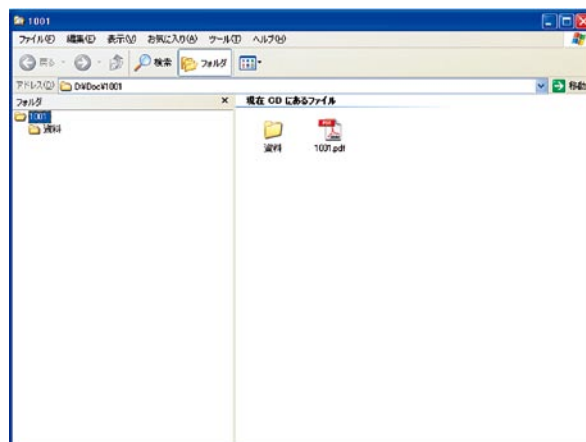


図5

動作環境

OS : Microsoft Windows XP、Microsoft Windows Vista 各日本語版
CPU : Pentium 4 1.6GHz以上推奨 (※OS毎の動作環境を満たす必要あり)
メモリ : 512MB以上 (※OS毎の動作環境を満たす必要あり)
CD-ROMドライブ : 4倍速以上
ディスプレイ : 65,536色以上、1024×768ドット以上
その他 : Acrobat Reader6.0以降

※当システムはCD-R上からの起動を前提としているため、ハードディスク等へ移動して起動した場合、環境によって正常に動作しなくなることがあります。

本冊子で紹介している指導案

本CDに所収されている指導案108案の中から、指導案18案の内容を簡単にご紹介します。

7つの大きなテーマ別に、小学校9案、中学校7案、高等学校2案を掲載しています。

(指導案の内容が、複数のテーマにわたっているものもあります。)

*凡例：●主題名 (ページ番号) (対象学年／本指導案を使用する教科等の時間)

		校 種		
		幼保・小学校	中学校	高等学校
テーマ	健康・安全	●健康な体づくりをしよう(6) (幼保／道徳) ●着衣泳教室～水の事故から身を守る「着衣泳」体験～(13) (小6／体育、特別活動、総合学習、PTA行事等)	●国際理解・親善は他者への理解から始まる(15) (中1／社会、道徳、特別活動)	●災害時、私たちにできること(23) (高1～3／特別活動、総合学習、学年集会等)
	奉仕	●奉仕～学級づくり～(8) (小3～4／特別活動、学級運営) ●ひびけ！ 下灘太鼓～和太鼓を使った高齢者との交流～(12) (小5～6／特別活動、総合学習)	●青少年赤十字活動と道徳の時間の指導の統合(16) (中1～2／道徳) ●しょうがいとともに生きる(19) (中1～3／道徳、特別活動、総合学習)	
	国際理解・親善	●世界の子どもたちのくらし(11) (小5／総合学習) ●ひびけ！ 下灘太鼓～和太鼓を使った高齢者との交流～(12) (小5～6／特別活動、総合学習) ●地球が危ない！ぼくたち・私たちの目で、世界の現状を見つめよう(14) (小6／道徳、総合学習)	●国際理解・親善「世界の人々と交流しよう」(17) (中2～3／特別活動、総合学習) ●国際理解～国際社会の一員として～(20) (中3／総合学習) ●国際理解・親善は他者への理解から始まる(15) (中1／社会、道徳、特別活動) ●青少年赤十字活動と道徳の時間の指導の統合(16) (中1～2／道徳)	
	赤十字の理念・原則の理解	●わたしたち赤十字のなかま～気づき、考え、実行する人になろう！～(7) (小4(小1～6)／道徳、特別活動、総合学習) ●青少年赤十字活動から学ぶ福祉(10) (小5／総合学習、学校運営)	●ソルフェリーノの戦場に立って(18) (中1～3／社会、道徳、特別活動、総合学習、学級運営、青少年赤十字登録式) ●世界の子どもたちの今を通して人道を考える(21) (中3／社会、道徳、特別活動、総合学習)	●赤十字の心を伝えた三上剛太郎から人道を学ぶ(22) (高2／地理歴史、日本史、特別活動、総合学習)
	国際人道法			●赤十字の心を伝えた三上剛太郎から人道を学ぶ(22) (高2／地理歴史、日本史、特別活動、総合学習)
	防災			●災害時、私たちにできること(23) (高1～3／特別活動、総合学習、学年集会等)
	その他	●校内リーダーシップ・トレーニング・センター(9) (小4～6／特別活動、総合学習、PTA行事等)		

健康な体づくりをしよう

対象学年 幼稚園(年長5歳児)

道徳

都道府県名：山梨県

作成者氏名：中沢 律子

所 属：田富みかさ幼稚園

主題について

食生活の偏りや身の回りの生活習慣の乱れが見られる。また体の成長と共に運動能力の低下が気になることから、「健康な体づくり」を進めることによって幼児期からできることを見つけ実践する。

ねらい

- ・正しい食生活の習慣を身につける。
- ・たくさん食べて、たくさん体を動かして体力を向上させる。
- ・病気をしない健康な体をつくる。
- ・集中力、持続力を高め、仲間と一緒に喜びを広げる。

指導の計画

一学期

- ・旬の野菜に関心を持つ。(道の駅見学・野菜づくり)
- ・食の大切さを知る。
- ・体力づくり(通年)

二学期

- ・味覚を楽しむ。(調理実習)
よもぎまんじゅうづくり、収穫した野菜でスープづくり
- ・基本的生活習慣についてのアンケートまとめ

三学期

- ・体力、発達測定のみまとめ



(指導案より)

展開

健康な体づくりとして、①食事、栄養②運動、遊び③休養の3つの柱を掲げ活動する。

①食事、栄養

偏食のある子、食への関心の薄い子、野菜の名称など、楽しみながら食材への興味を高め健康な体を維持するために大切な栄養バランスを考えてみる。

②運動、遊び

疲れやすい子、体の硬い子が多いことから、継続して行える体力づくりを通してその成果を見る。また、仲間と遊びを発展させる中で「協調性・自立性」を学ぶ。

③休養

生活リズムの乱れから、朝から気力のない子がいるため、家庭との連携を図りながら就学前に生活リズムを整える。



(指導案より)



(指導案より)



(指導案より)

わたしたち赤十字のなかま

～気づき、考え、実行する人になろう！～

対象学年 小学校4年(小学校1～6年)

道徳 特別活動 総合学習

都道府県名：石川県

作成者氏名：中川 晴美

所 属：金沢市立三谷小学校

主題について

「自分たちの考えを生かしながらの明るく楽しい生活」「人と積極的にかかわりながらの心温まる生活」をめざすきっかけとして、JRCの活動が生かされると考え、合科的関連的学習（総合、学活、道徳）としての本単元をくんだ。「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」「気づき、考え、実行する」などのことばを子どもたちの身近な生活と結びつけながら、とりくませていきたい。

ねらい

- ・自分たちの力や考えで、活動を創っていかうとする態度」や「すすんで人とかかわったり、気づいて役に立っていかうとする態度」を持つ。（関心・意欲・態度）
- ・調べ活動や話し合い活動、JRCの仲間としての活動などをとおして、自分なりの考えを持ったり、自分の考えや感じたことを素直に表し、伝え合ったりする。（表現）

指導の計画

※合科的関連的学習（総合、学活、道徳）として

第一次 赤十字って何かな（7～9月）

第二次 赤十字の仲間になろう（10月）

第三次 JRCの仲間として活動しよう

①健康・安全（10～11月） ②V・S 奉仕（11～12月） ③国際理解・親善（12月～2月）

第四次 これからのわたしにできること（3月）



（指導案より）

展開

〈第一次中の1時・・・道徳〉アンリー・デュナンってどんな人？

活動	時	活動の流れ	支援
アンリー・デュナンのお話を読む。	5	赤十字って何かな。	←（資料） パワーポイント「アンリー・デュナンの生涯」（日本赤十字社の資料等をもとに独自に作成）
わかったこと、思ったことを話し合う。	15	〈アンリー・デュナンってどんな人？〉 「赤十字の父 アンリー・デュナン」のお話を聞こう。	
赤十字の活動について知る。	15	わかったことや思ったことを伝え合おう 	・ワークシートを活用し、わかったことや思ったことを自由にメモする時間をとる。 ・自分の考えや思いをしっかりと伝えたり、友だちの考えをうけとめあったりできるように、支援する。
ふりかえりをする。	5	デュナンのつくった赤十字は今でも世界中でいろいろな活動をしているんだよ。先生が少し資料を持ってきたから、紹介するよ。 アンリー・デュナンは自分のことより、人を助けることをがんばった人だ。赤十字をつくった人だ。 赤十字のことをもっと知りたい。自分も何か役に立ちたい。 今日の学習のふりかえりをしよう。 これから、赤十字のことをもっと調べていこう。	←（資料） JRC関係のポスター等 ・アンリー・デュナンの生き方に心を動かし、赤十字についてもっと知りたい、調べたいという思いを持たせたい。

奉仕 ～学級づくり～

対象学年 小学校3～4年

特別活動 学級運営

都道府県名：京都府
作成者氏名：富川 淳仁
所 属：京都市立大枝小学校

主題について

子どもたちは「ボランティア」という言葉を知っていても、実際に何をするのかわからず教師の指示待ちになっていることが多い。また、「ボランティア」と称して教師が子どもたちを都合の良いように動かしている場面を見ることがある。ここでは本来の活動「気づき、考え、実行する」子どもたちを育てるための指導を考えたい。

ねらい

「ボランティア」は自分で「気づき、考え、実行する」ことに意義がある。また、そのことが子どもたちの生活の中での自信にもつながることでもある。年度当初のクラスづくりから始め、年間を通して「ボランティア」活動のできるクラスを築いていきたい。

クラスの子どもたちの実態に合わせた活動をさせていきたいので教師主導型のボランティアにはしない。

指導の計画

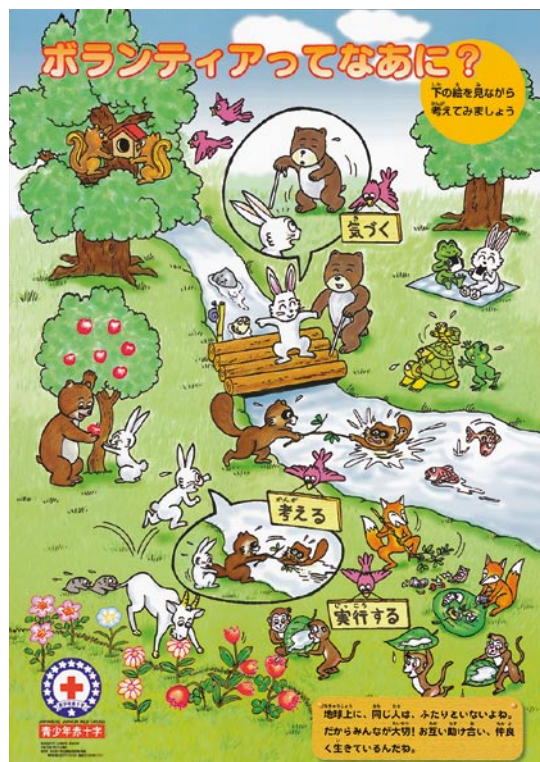
第1時 30秒間で「みんなのためになること」を探し30秒で活動を終える。一部の子どもたちは実行できるが、できない子どもたちがいてよい。

第2時 前時と同じ条件で活動を行う。同じことをやる子もいるが新しい活動を始める子もいる。

第3時 前時までと同じ活動を行うことを前提とするが、子どもたちの提案によってグループ活動になったり時間を延ばしたりすることも考える。

展開

- ・全員その場で「みんなのためになることで今すぐにできること」がないか探させる。
- ・気づいた「みんなのためになること」をやってみる。
- ・活動できた子どもたちの思いを聞く。



(青少年赤十字機関誌443号)

校内リーダーシップ・トレーニング・センター

対象学年 小学校4～6年

特別活動 総合学習 その他(PTA行事・学年レクリエーション等)

都道府県名：沖縄県

作成者氏名：玉城 政邦

所 属：浦添市立仲西小学校

主題について

学校生活の中で集団の力を高めていくには、いろいろな実践活動があると思われるが、学習した内容をすぐに、実行実践していくには、「校内リーダーシップ・トレーニング・センター」(TC)は、有効かつ効果的と思われる。TCの運営を中心になって実行する実行委員会を組織し、児童が主体的に活動する場面を多く持つことにより、学校生活に対して意欲的(気づき、考え、行動する)に活動できるようになると思われる。

ねらい

- リーダーとして行動するためのトレーニングをする。
- 青少年赤十字の実践目標を学習し、実践する。
- 学年仲間と交流し、楽しい思い出とする。

指導の計画

時 限	学 習 活 動	指 導 事 項	教材・資料等
第1時 (45分× 2時間)	・日赤沖縄県支部主催TCの報告会をする。 ・JRC活動の様子のビデオをみる。	・掲示板を見ての行動が、できるようにする。 ・レク等も盛り込むようにする。	報告用資料 ビデオ
第2時 (45分× 2時間)	・校内フィールドワークをする。 ・キャンプファイヤーの練習をする。	・実行委員会に、進行させる。	校内フィールドワーク用具
第3時 (45分× 6時間) 本時	・災害時非常食の準備をする。 ・救急法を学習する。 ・フィールドワーク(校区)をする。 ・キャンプファイヤーをする。	・日赤沖縄県支部職員の指導をうける。 ・フィールドワークを楽しむ。	レサシアン、フィールドワーク用具など

展開

所要時間	学 習 活 動 の 流 れ	指導者の留意事項・支援活動
1.災害時非常食の準備	・災害時非常食(ハイゼックス)の仕込をする。	災害時非常食(ハイゼックス)の作り方を事前に確認しておく。
2.救急法	・救急法の話聞き、実際にやってみる。	命の大切さを知り、救急車が来るまでの対応を身につける。
3.フィールドワーク	・グループ協力しながらフィールドワークを楽しむ。	安全に活動できるように、役割分担を事前に確認しておく。
4.キャンプファイヤー	キャンプファイヤーを楽しむとともに、支えてくれた人への感謝の気持ちを確認する。	キャンプファイヤーを楽しむとともに親子交流の場にする。



(指導案より)



(指導案より)

世界の子どもたちのくらし

対象学年 小学校5年

総合学習

都道府県名：京都府

作成者氏名：前田 泉

所 属：京都市立大宅小学校

主題について

世界の国々をグループで調べていくうちに自分たちの生活とちがいがあることに、おどろきの声が上がった。そこで、子どもたちが自ら学習課題を立て、追究することをねらい、質問に答えるかたちで、支援を必要とする国の実態を調べて理解を深め、自分たちとのちがいに気づかせたい。そして、自分が毎日の暮らしの中で気をつけなければならないこと、出来ることを考えさせたい。

ねらい

- ・新聞や本、インターネットを利用して世界の国の様子を調べ、子どもたちがどんなくらしをしているか調べる。
- ・発展途上にある国の子どもたちが、病気で苦しんでいることや、学校に行けず、重労働をしている現実を知る。
- ・赤十字の支援活動の様子を知る。

指導の計画

(1)世界の国の様子を知ろう（5時間）

- ① 知っている国の名前をあげ、世界地図で位置を調べる。
- ② 興味を持った国について調べる。
 - ・地形や気候 ・他の国との関係 ・衣食住・水などについて ・子どもの生活について
- ③ 世界の国について調べてまとめる。
- ④ 調べた国について発表する。

(2)世界の子どもたちのくらしを調べよう（5時間）

- ① 支援を必要とする国の子どもたちの生活を調べる。
- ② 調べたことを工夫してまとめる
- ③ 子どもたちのくらしの様子をわかりやすく伝え合う。
- ④ 赤十字の活動の内容を知る。



(この画像は指導案本体には含まれません)

ひびけ！ 下灘太鼓

～和太鼓を使った高齢者との交流～

対象学年 **小学校5～6年**

特別活動 **総合学習**

都道府県名：愛媛県
作成者氏名：西尾 知照・池内 陽子
所 属：伊予市立下灘小学校

主題について

本校では地域の高齢者との交流が盛んで、伝統的に受け継がれている下灘太鼓を通した交流は、2年目となる。昨年度の経験を生かしてより楽しくなるような工夫を考えたり、新しい視点でアイデアを出したりしながら交流会を計画・実施する活動を通して、主体的に考え、たくましく実践する児童を育てたいと考えた。また、地域の人々との交流を深め、郷土への愛着をもたせたいと考え、本単元を設定した。

ねらい

昨年度の経験を生かして「あすなろ会」の方との交流を深めるための工夫に気づき、友達と考えを出し合い、協力しながら交流会を開くことができるようにする。また、見守り活動等をしてくださっている地域の人々に感謝の気持ちを持ち、共に活動するなかで親交を深め、郷土を愛していこうとする態度を育てる。

指導の計画

	学 習 活 動	時 数
気 づ く	昨年度の活動をふり返り、今年度の交流会の見通しをもつ。	1 時間
考 え る	交流会の計画を立てる。	2 時間
実行する	交流会を開く。(本時)	1 時間

展開

学習活動	児童の意識の流れ	○支援 ◆評価
1 本時のめあてを確認する。	今年も一緒に太鼓を叩いて、楽しく交流しよう。 ・今日は話をいっぱいしよう。 ・楽しい交流会にしたいな。 ・上手にリズムが作れるかな。	○ 交流を楽しみにしていた高齢者の気持ちを聞く機会をもち、児童の意欲を高める。
2 4人の班に分かれてリズム作りをする。 (1)リズム作りをする (2)工夫したことを話し合う。	「あすなろ会」の方と一緒にリズムを作ろう。 ・どんなリズムが叩きやすいかな。 ・好きな太鼓のリズムはあるかな。 ・話し合って、素敵なリズムを作ろう。 リズムづくりの工夫をみんなに知らせよう。 ・ゆっくり叩けるリズムにしているよ。 ・話し合いながらリズムを作ったよ。 ・他のグループはどんなことに気をつけているのかな。	○ 叩きやすいリズムを高齢者に聞き、そのリズムから広げて作っていくように助言する。
(3)他のグループのよいところを取り入れてリズムを作る。	リズムを作って練習しよう。 ・他の班のよいところを取り入れよう。 ・もう少しリズムを工夫しよう。 ・4人でしっかり合わせよう。	○ 自分のグループの課題を解決する工夫はどれか考えながら聞くように助言する。
3 全員で合わせて演奏する。	心を一つにして演奏しよう。 ・おじいさん、おばあさんと心を合わせて演奏しよう。 ・みんなでリズムをつなげて演奏すると楽しいな。	○ できあがったリズムを一つにつなげて演奏することで、高齢者と共に作り上げた達成感を味わわせたい。
4 本時の学習を振り返る。 (1)感想を発表する。 (2)教師の話を聞く。	今日の交流会を振り返ろう。 ・一緒にリズムを考えることができてよかった。 ・「あすなろ会」の方も楽しんでくださったな。 ・「あすなろ会」の方と一緒に楽しく交流できてよかったな。 これからも交流を続けたいな。	○ 児童だけでなく、高齢者からも感想を聞くようにし、活動の成就感を味わうことができるようにする。 ◆ 高齢者と交流する喜びを味わうことができたか。 ○ 児童会で行う交流活動へ意識をつなげ、交流を続けていこうとする気持ちを高める。

着衣泳教室

～水の事故から身を守る「着衣泳」体験～

対象学年 **小学校6年**

体育 **特別活動** **総合学習** **その他(P T A行事等)**

都道府県名：秋田県

作成者氏名：小野 功

所 属：秋田市立飯島小学校

主題について

夏休みを前にした水泳指導の一環として実施している「水難事故防止指導」は、体育の授業としてだけではなく、この時期における大切な安全指導であり、そこで大きな力を発揮しているのが「着衣泳法」である。

日本赤十字社が提供するプログラム「水上安全法」(着衣泳法)を、専門の指導者の協力を得て体育の授業として指導できることは有効な手法と考えられる。(ゲストティーチャー)

ねらい

- 着衣状態で水に落ちた場合に、落ち着いて対応できるように、対処法と救助法を体験的に学び、技能を身につける。 “浮きやすさの体験”
- 着衣(靴)状態で水に落ちる体験をし、対処法を身につける。
- 着衣(靴)状態で浮き方、泳ぎ方を体験する。
- 身近なものを使って浮力を得る方法を知り、陸からの救助法を理解する。

指導の計画

(水泳指導 12時間)

1. 泳力調べ、グループ分け(2)
2. 泳法指導Ⅰ(4)

自己の能力に適した課題をもって、クロール等の技能を身につけ、ある程度続けて泳ぐことができる。

●3. 着衣泳教室(2 本時)

着衣状態で落下と落下時の対処方法、浮き方、泳ぎ方、浮力を得る方法、救助法を体験し、理解する。

4. 泳法指導Ⅱ(2)

自己の能力に適した課題をもって、得意な泳法で続けて長く泳ぐことができる。

5. 泳力調べ、まとめ(2)

展開

(本時の要点)

※バディシステムの確認

準備運動、シャワーをあびる。

●それぞれについて、指導者によるデモ、A・Bグループごとに体験する。

1. 入水

身体各部に水をかけ、頭まで水にもぐる

2. 水に慣れる

- ・水の中で、ジャンプ・沈み込みを通して水に慣れる。
- ・クラゲ浮きからの立ち方、伏し浮きからの立ち方を体験する。

3. 着衣(靴)状態のまま水中でさまざまな行動を体験する。

- ・水着と比べて動きはどうか。
- ・手の動きはクロールと平泳ぎではどちらが楽か。
- ・靴を履いたままのばた足と平泳ぎのキックでは進みやすさはどうか等

4. 着衣(靴)状態で水中に落下し、プールサイドに戻る体験をする。

いろいろな姿勢での体験をする。

(横向きにかがんで、前向きにかがんで、後ろ向きにかがんで)

5. 着衣のまま浮いたり、呼吸を確保しながら泳ぐ体験をする

- ・エレメンタリー・バックストロークの泳ぎ方。
- ・身の回りの浮く物を利用して浮いていられることを体験する。
(ペットボトル・ビニール袋・バック・ランドセル等)

6. まとめ

- ・着衣(靴)状態で水に落ちることは非常に危険である。
- ・万一落ちた時は、素早く岸に戻ることが大切である。
- ・身の回りの浮く物を利用して浮いていることができる。
- ・泳ぎではエレメンタリー・バックストロークが有効である。



(指導案より)



(指導案より)

地球が危ない！ぼくたち・私たちの目で、世界の現状を見つめよう

対象学年 小学校6年

道徳 総合学習

都道府県名：愛知県

作成者氏名：勝野 佐由利

所 属：名古屋市立千種小学校

主題について

豊かな生活に慣れてしまっている子どもたちは、貧困について何の危機感ももたずに生活している。世界の現実に関しても、あふれる情報の中で、その現実を深く考えることは少ない。そこで、貧困と戦争について赤十字の資料やその他の文献を通して、自分たちと世界はつながっていて、決して無関係ではないことを考えさせたい。さらには、自分たちが身近にできることや世界の貧困問題に協力できることは何かに気付かせ、実行し、その喜びを味わわせる。

ねらい

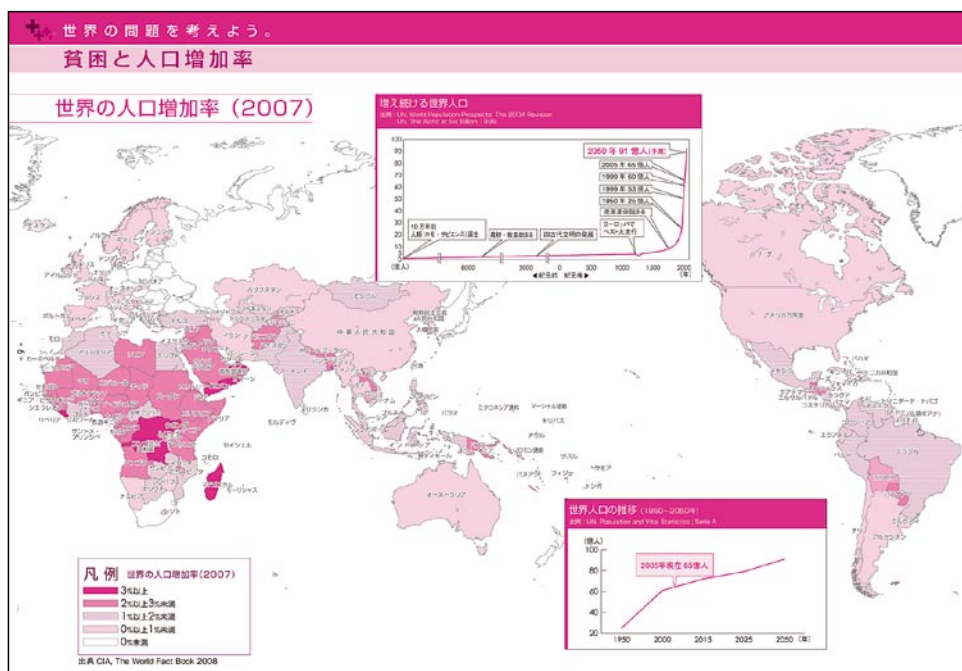
地球上に起きている貧困問題は、決して自分たちの生活と無関係ではないことに気付き、「自分たちにできることはないのか？」について積極的に考える子どもたちを育てたい。また、日本の食糧自給率が40%を切っている現実、将来的に貧困問題につながっていく危険性を大いにもっていることにも気付かせたい。また、赤十字の「仲よく助け合う精神」をもとに、1円玉募金やトピックアルバムという方法で国際人としてのかわりが可能になることも学ばせたい。

指導の計画

- 第1時：世界の貧困問題について、赤十字の資料を通して学ぶ中で、貧困の原因をお互いに考えたり、グループでその原因を調べたりする。
- 第2時：世界の貧困問題の解決について、どんな方法があるかを考えたり、話し合ったりする中で、今実行できることは何かを学ぶ。
- 第3時：自分たちが考えた方法を実際に期限を決めて実行する。
- 第4時：自分たちが実行した活動報告を行い、今後の課題を見付ける。

展開

- 第1時：世界の貧困について、赤十字の資料の写真や映像を使って、感じたことを話し合う。その後、貧困の原因を考え、互いの意見を交換する。さらに、グループで、貧困の現状やその原因が分かる他の資料や情報を集める。
- 第2時：世界の貧困の現状やその原因について、グループごとに調べたことをお互いに発表させる。その後、自分たちにできることを話し合う。
- 第3時：自分たちにできることを実際に実行する。
- 第4時：活動の振り返りをグループごとに発表する。さらには、自分たちの今後の活動内容を考える。



（『世界で生きるこどもたち』より
日本赤十字社ホームページでダウンロード可能）

国際理解・親善は他者への理解から始まる

対象学年 **中学校 1 年**

社会 **道徳** **特別活動**

都道府県名：北海道

作成者氏名：山本 米一

所 属：札幌市立澄川中学校

主題について

他者をいたわり思いやる心を育て、自己を生かす活動体験を通して、自己有用感、自己存在感を確かなものにする。様々な人と関わりながら活動することを通して、社会の一員としての規範意識やルール、豊かな人間性を育てていきたい。

ねらい

自分とは異なる人の存在を理解し、その存在を認める気持ちを育てる。

相手の立場を理解し、他の人々や社会のために役立つ体験を通して、他人を思いやる心や人の役に立とうとする態度を養う。

人間として、「健康」や「安全」が脅かされている世界の子どもたちに目を向け、集団や社会の一員としての責任を自覚する。

指導の計画

- | | |
|--|--|
| 第1時～第3時「他の人について知ろう。」 | →他者との交流トレーニング（異年齢の他者） |
| 第4時～第7時「自分たちの町を発信しよう。」 | →1. 課題の把握（グループ・ディスカッション）
2. 課題の追求（グループ活動）
3. 成果の発表（グループ活動） |
| 第8時～第9時「他の国について知ろう。」 | →1. 課題の把握（グループ・ディスカッション）
2. 課題の追求（グループ活動）
3. 成果の発表（グループ活動） |
| 第10時～第11時「他国の人と交流しよう（JICA、ALTの人たちなどとの交流）。」 | →1. 成果の活用（グループ活動）
2. ふりかえり（個々の活動） |

展開

第8時

学習内容

【課題の把握】

- ・フィリピンについて、調査する。日本との関係（貿易など）、気候や生活の様子、困っていることなどについてわかる。
- ・水の確保について、日本に比較して非常に困難であることがわかる。

【課題の追求】

- ・フィリピンでは、清潔な飲料水や学校のトイレが不足していることを知る。
- ・そのことから、衛生環境が悪化していることがわかる。

学習方法・形態

- ・調べる項目の分担について、相談して決定する。
- ・資料は、各自用意する。図書室やコンピュータ室も活用しながら、調べ学習を進める。
- ・グループごとに、まとめたことをもとにして、フィリピンで困っていることを整理させる。

留意点

- ・今までのグループワークで培ったテクニックを最大限活用する。
- ・資料として、インターネットを積極的に活用し、最新の情報に触れさせる。

第9時

学習内容

【課題の追求】

- ・プリント（世界の水に関するデータ）に取り組み、水の大切さについて知る。

【課題の解決・成果の発信】

- ・何ができるか、何をしたらよいのかをグループ内で話し合う。
- ・話し合った結果を画用紙に記入し、ポスターを制作する。

学習方法・形態

- ・グループ内で相談しながら、作業を進める。
- ・成果を発信する場合、模造紙などを活用し、ポスターセッションの形式をとると良い。まとめたことをもとにして、フィリピンで困っていることを整理させる。

留意点

- ・解答は、教師側からおこなう。
- ・課題の解決については、「1円玉募金活動」の促進へ方向付けるとよい。（VTRも活用）

青少年赤十字活動と道徳の時間の指導の統合

対象学年 中学校 1～2年

道徳

都道府県名：佐賀県
作成者氏名：幡生 芳隆
所 属：佐賀市立成章中学校

主題について

本校は、青少年赤十字活動として、募金活動、町内清掃などを年間を通して計画的に行っている。しかし、最近では「学校の活動だから」といった受け身の気持ちで義務的に活動している傾向も見られる。生徒がより主体的に活動するためには、人の精神を内面的に自覚する必要がある。そこで、青少年赤十字活動と道徳の時間の指導を統合させ、道徳的価値の内面的な自覚をより主体的に図ろうと考えた。

ねらい

道徳教育は、自ら考え判断し、道徳的実践ができる人間の育成を目指すものである。そこで、道徳の時間と青少年赤十字活動を関連付けて、総合単元的な道徳学習を展開することを考えた。つまり、道徳の時間と青少年赤十字活動との接点を見出し、複数の内容項目を総合して総合単元を設定する。そして、事前指導を取り入れながら、前後の授業との関連を明確にして生徒たちの意識の継続を図り、ねらいにせまりたい。

指導の計画

道徳の時間（1時間）→青少年赤十字活動→道徳の時間（4時間）

- ①【道徳の時間】「人道」の精神についてじっくり考える
主題名 人類愛 内容項目 4-(10) 資料名 みんな同じ人間どうし（ビデオ）
- ②【青少年赤十字活動】活動することの喜びを実感する
- ③【道徳の時間】「人を思いやる心」についての考えをさらに深める
主題名 人類愛 内容項目 4-(10)
資料名 マザーテレサについて（自作資料） あふれる愛（沖守弘作）
- ④【道徳の時間】「自分の今までの言動や級友との接し方」を振り返る
主題名 人を思いやる心 内容項目 2-(2) 資料名「私の妹」（松谷みよ子 作）
- ⑤【道徳の時間】これまでの学習をまとめながら実践化への意欲付けを行う
主題名 奉仕の心〈内容項目 4-(5)〉
資料名 勇気という言葉を知ったよ（出典 小学館 新しい道徳の実践資料）

展開

■第1時 資料名「みんな同じ人間どうし」

①主題名 人類愛

②学習の流れ

赤十字の父「アンリー・デュナン」の生涯を追いながら、文化祭に向けての取り組みを内面から支える「人道」の精神についてじっくり考えさせる。

③学習の展開

展 開	導入	1.日本赤十字社の主な活動を紹介する。
	展開	2.資料「みんな同じ人間どうし」（ビデオ）を見て、感想を発表し、話し合う ○ 敵、味方の区別なく傷ついた兵士を救護する団体をつくるというアンリー・デュナンの考えを、当時の人々はどんな気持ちで受け取ったと思いますか。 ○ アンリー・デュナンは、どういう気持ちでジュネーブを去っていったと思いますか。 ◎ アンリー・デュナンの考え方や行いについてどう思いますか。
	終末	3.文化祭に向けての取り組みの中で考えていることを発表する。 ○ 文化祭に向けて今までに感じたことや考えたことは何ですか。
		4.「人道」という言葉を紹介する。 「人の命を大切にしながら、みんなで助け合い協力しながら、だれもが人間らしく幸福に暮らせる社会を築く。」

国際理解・親善

「世界の人々と交流しよう」

対象学年 中学校2～3年

特別活動 総合学習

都道府県名：徳島県

作成者氏名：徳島市立城西中学校 岡島 三千代

所 属：徳島市・名東郡中学校教育研究会

主題について

生徒たちは、世界のさまざまな国や地域の人々のくらしや文化が、自然や歴史、民族、宗教などの多様な要因によって、異なることを学習している。今日の国際社会においては、それぞれの特色や相違を尊重し、互いに理解を深めようとする姿勢が重要であること、世界平和につながることを学ばせたい。ここでは国際理解を進めるためにトピックアルバムを作成し、自分たちの学校や地域のように、日本の伝統文化などを紹介する手法を学ばせたい。

ねらい

- (1) 世界のさまざまな国や地域の人々のくらしや文化を学ぶことで、国際理解を深めさせる。
- (2) トピックアルバム作りを通して、自分の国や居住する地域、学校の良さを再発見させる。
- (3) トピックアルバムを交換することで、国際交流の楽しさを体感させる。
- (4) 将来にわたって、主体的に「国際理解・親善」に取り組もうとする意欲を育てる。

指導の計画

(3時間)

第一時 世界の現状の紹介と、学校や地域、日本を紹介する手法の指導

第二時 トピックアルバムの作成

第三時 トピックアルバムの仕上げと発表会
日本の「国際理解・親善」の取り組み

展開

- 第一時 (導入) ①世界の現状を知ろう。
・世界の人々のようすや子どもたちがおかれている状況を知る。
- (展開) ②自分たちにできる、日本を紹介する方法を考える。
③トピックアルバムを利用し、自分たちの学校や地域を紹介する手法を学習する。
- 第二時 (展開：トピックアルバムの作成)
①班で各自が収集した資料をもとに、アルバムの内容と構成を検討する。
②分担を決めて記事を作成する。
③作成した記事を班員で検討する。
④地図や写真等の配置を工夫し、見やすいレイアウトでアルバムを作成する。
- 第三時 (展開：トピックアルバムの仕上げと発表会)
⑤各班でトピックアルバムの仕上げをする。
⑥トピックアルバム発表会を行い、互いに評価する。
- (まとめ)
・わが国の「国際理解・親善」を進めるための取り組みについて学習する。



(この画像は指導案本体には含まれません)



ソルフェリーノの戦場に立って

対象学年 中学校 1～3年

社会(歴史・公民的分野) 道徳 特別活動 総合学習 学級運営 その他(青少年赤十字登録式)

都道府県名：群馬県

作成者氏名：田沼 正一

所 属：伊勢崎市立境南中学校

主題について

本題材は「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する」という新学習指導要領の3-(1)「生命の尊重」の道徳的価値をねらうものである。人の痛みを感じ生命を尊重する精神が薄れ、規範意識が低下してきている社会情勢にあって、アンリー・デュナンがイタリア統一戦争時に負傷者の敵味方の区別なく、「人間は皆兄弟！」と叫んで救護した活動から、「生命の重み」を実感して生き抜いた生涯に触れさせることは有意義であろう。

ねらい

アンリー・デュナンのソルフェリーノの戦場における「人間は皆兄弟！」と叫んで負傷者の敵味方の区別なく救護した活動とその後の生き方に着目して、生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命の尊重をする道徳的心情と実践力を養う。

指導の計画(抜粋)

時 限	学 習 活 動	指 導 事 項	教材・資料等
第1時 50分	●紙芝居を見て聴いて、戦場での体験が、デュナンの生涯と人生を大きく変えたことを理解する。 ●デュナンがどのような行動をした人なのかについて、発表し合いマインドマップに整理する。	●アンリー・デュナンの生涯を描いた紙芝居を演じ、デュナンの戦場における気づきに注目させる。 ●デュナンの人となりについて、発表させ、マインドマップに視覚的に分かるよう整理する。	●紙芝居 ●文献『ソルフェリーノの思い出』 ●マインドマップ用模造紙
第2時 50分	●デュナンが敵・味方の区別なく救護したことについてグループで話し合い、考えをハート型付箋に書き出す。 ●教師の説話(赤十字の基本原則とモンゴル赤十字社訪問体験談)を聞き、2時間の授業の感想をまとめる。	●デュナンが戦争当事国出身者であったならば救護活動ができたかどうか、グループで話し合いをさせる。 ●デュナンはどこまでも「生命の尊重」を追求していたことと、彼の精神が外国でも生き続けていることを理解させ、実践力を育てる。	●ハート型付箋シール(考え書き出し用) ●田沼正一撮影写真(モンゴル赤十字社派遣訪問写真)

展開(抜粋)

過 程	学 習 内 容	主 な 発 問	生徒の活動の様子【写真】
【第1時】 つかむ 40分 深める1 10分	●紙芝居「赤十字の創立者-アンリー・デュナン-」を見る。 ●デュナンが戦場で「敵・味方なく救護した」ことを考える。	●デュナンの生涯を描いた紙芝居を演じます。デュナンの戦場での「気づき」に注意して見ましょう。 ●デュナンが戦場で「敵・味方なく救護した」ことについて「生命の尊さ」の視点で考えましょう。	 【デュナンの紙芝居】
【第2時】 深める2 10分 まとめる 10分 広げる 20分 振り返る 10分	●グループで前日各自がまとめたことを発表し合う。 ●グループで課題について話し合い、考えを一つにまとめる。 ●各グループが全体に向けて意見を発表し交流する。 ●教師の説話を聞き、授業を振り返っての感想を学習プリントにまとめる。	●4人組のグループになって前日各自が書いたものを発表し合います。 ●デュナンが戦争当事国出身者ならば「敵・味方の区別なく救護」できたでしょうか。 ●グループで話し合った結果を全体に発表し、付箋を黒板の掲示物にはってください。 ●デュナンの精神は赤十字の7原則に反映し、彼の精神は現在のモンゴルでも生き続けています。	 【デュナンの生き方について考えを発表】 (指導案より)

しょうがいとともに生きる

対象学年 中学校 1～3年

道徳 特別活動 総合学習

都道府県名：神奈川県

作成者氏名：森川 佳純

所 属：川崎市立渡田中学校

主題について

子どもたちに、相手のことを思いやる心と、困っている人に対して、自分に何ができるのかを考えてほしい。

ねらい

視覚障害について学ぶことを通して、他者理解を深める。目の前にいる人のニーズに気づくことができるようになる。ともに生きるための自発的な活動について考える機会とする。

指導の計画

(展開)

①講師紹介（神奈川県ライトセンターの紹介） 〈5分〉

※事前にこの研究のねらいを知らせておくこと。

②ライトセンターの方のお話 〈50分〉

「視覚障害の状況（日常生活）について」「誘導の仕方の基本」など

※障害者の方のニーズが多岐にわたっていることに気づかせる。

③一緒に〇〇するとき、どうする？ 〈20分〉

・普段の生活場面で視覚障害のある方と一緒にあったとき、どのような工夫をすればよいかを考える。

※工夫しようとする気持ちを大切にし、失敗したり途中で終わったりしても構わない。

※子どもたちから具体的な場面が出てこない場合は、ライトセンターの方から具体例を挙げてもらったり、アドバイスしてもらったりする。

※直接、視覚障害のある方とコミュニケーションをとれるように学習形態を工夫する。

④誘導体験をしてみよう 〈20分〉

・2人1組で実際に体験してみる。

・言葉かけの仕方が重要なポイントであることを体験する。

※実際に誘導したり、誘導されたりする中で、言葉の大切さや周囲の状況の説明、確認の必要性に気づかせたい。

また、気持ちを育てることはもちろん技術的な部分の向上も図りたい。

⑤振り返り 〈10分〉

・印象に残っている場面や言葉、感想や理由を発表させる。

※どの場面でもよい。

※自分の感想だけではなく、他の人の様子をみて気づいたことなどでもよい。

⑥まとめ 〈10分〉

・ニーズに気づくことの大切さを確認する。

・視覚障害の方が困っている場面での声をかけることの大切さを理解する。

・身近で困っている人への理解を深める。

※ニーズに合った関わりが重要であることをもう一度確認する。

※誰にとっても生きやすい社会にしていけるためには今の自分に何ができるのかを投げかける。

〈留意点〉事前に、神奈川県ライトセンターとの打合せ（施設職員の派遣が可能な日程・アイマスク・白杖など必要資材の確認）を行う。誘導体験のルートの確認を十分に行う。特に、学校の敷地外での誘導を行う場合には細心の注意を払う。



(神奈川県ライトセンター)

国際理解

～国際社会の一員として～

対象学年 中学校3年

総合学習

都道府県名：愛媛県

作成者氏名：堀内 良之

所 属：西予市立明浜中学校

主題について

現代の国際社会においては、単に日本人というせいまい意識ではなく、同じ地球に生きる一員としてどう生きていくのかということを考えさせる必要がある。世界の国々の子どもたちの現状やその問題点を解決していくために行われる活動を調べ、自分たちが何ができるかを考え、実行することをおして、生徒に優しさと豊かな心を育て、「国際社会の中で生きる力」を育成することができると考え、この主題を設定をした。

ねらい

- 同じ地球に生きる一員として、自分たちに何ができるかを考え、具体的に実行して、貢献しようとする態度を持つ。
- 設定した課題を、インターネットや書籍資料などを適切な資料を選択し、主体的に調べるとともに、追求したことをもとに、提示資料を工夫しながら、適切な資料を使って他の人に分かりやすく発表することができる。

指導の計画

- オリエンテーション (1)
- 学習課題づくり (4)
- 課題1「世界の紛争地域を中心に子どもたちの生活を調べよう」の追求と発表 (6)
- 課題2「子どもたちを助けるために行われているのだろう」の追求と発表 (10)
- 課題3「私たちにできること」を考え、実行の計画を立てる。 (8)
- 計画を実行する。 (2)

展開

(課題2における展開例)

課題2：子どもたちを助けるためにどのような活動が行われているだろう。

学 習 活 動	資 料
(1) 国際連合の取り組みについて調べる。(2時間)	・国連発行資料 ・UNICEF発行資料など
① 条約の整備 世界人権宣言 ② UNICEF(国連児童基金)の活動	
(2) 国際赤十字の活動について調べる。(4時間)	・「教師のための国際人道法ハンドブック」 ・「Children and War」 ・「ジュネーブ条約と赤十字の基本原則」 ・「青少年赤十字の世界」CD-ROM ・「国際人道法～あなたの質問に答えます」 ・「青少年赤十字プレゼンテーション」 日赤愛媛県支部 ・「日本赤十字社ホームページ」
① 国際人道法について調べる。 ・「人間としての最低限度の人道的なルール」 ・「武力紛争の影響を受ける、すべての人々に対する保護と人道的な取り扱いを規定した国際法」	
② 赤十字の基本原則について調べる。 人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性 世界の人々の信頼 真の平和のための行動	
③ 具体的な活動について調べる。 緊急援助活動から開発協力活動まで ・アフガニスタン紛争犠牲者救援 ・カンボジア義肢製作事業 ・ネパール保健衛生事業 ・アフリカにおけるエイズ対策 ・コソボ難民救援など	
(3) 調べたことを発表しよう。(4時間)	
① 調べたことを発表資料にまとめる。 ② 発表して、他のグループに伝える。	

世界の子どもの今を通して人道を考える

対象学年 中学校3年

社会 道徳 特別活動 総合学習

都道府県名：鹿児島県

作成者氏名：松永 崇利

所 属：霧島市立日当山中学校

主題について

赤十字の基本原則である「人道」と実践目標である「国際理解」の2つを取り上げます。また、「人道」とは人間の尊厳を通して内容項目3-(3)に含まれる価値を共に考えていく「道徳的心情」に関わる主題であり、「国際理解」は世界の諸問題を通して内容項目4-(10)に含まれる価値を共に学んでいく「道徳的理解」に関わる主題とも言えます。2つの主題を設定することのデメリットより、一緒に扱うことの相乗効果の方が大きいと考えて、本主題を設定しました。

ねらい

- 世界の諸問題（ストリート・チルドレン、少年兵、地雷）への理解を深めさせる。
- 世界の諸問題を通して、人道及び人間の尊厳が何であるかに気づかせる。
- 世界の諸問題について、自分にできることは何かを考えさせる。

指導の計画

第1時

〔STEP1〕価値の意識化世界の諸問題に目を向ける（価値「国際理解」の意識化）

〔STEP2〕世界の諸問題を知る（価値「国際理解」の焦点化）

〔STEP3〕人間の尊厳について考える（価値「人道」の追求・深化）

第2時

〔STEP4〕「人道」・「人道の敵」について知る（価値「人道」の自覚化）

〔STEP5〕世界の諸問題を自分の問題として考える（実践への意欲化）

※STEP3、4の内容を精選して、1時間で行うことも可能

展開

Step 1 【価値の意識化】一斉形式（10分）

〔教師〕自作資料「世界に目を向けよう」スライドショーを見せる。

〔生徒〕映像に映し出された写真が、何の出来事かを答える。

〔教師〕「世界の諸問題に目を向け、私たちにできることを考えてみよう」と板書する。

※S1の目的は、本時の主題が「国際理解」と「人道」と意識させる

（『今日は世界のことを勉強するのかな？』『世界には困っている人がいる』）こと。

Step 2 【価値の焦点化】一斉形式（20分）

〔教師〕自作資料「世界に目を向けよう」プレゼンテーションを見せる。クイズ形式で、生徒の思考・関心を高める。

〔生徒〕今日の時間は、ストリートチルドレン、少年兵、地雷という、自分たちと同じ子どもが犠牲になっている3つの国際的な諸問題について、考えていくことを理解する。この3つの諸問題に対する率直な感想を黒板に書きに行く。

〔教師〕5人の3グループに分ける。意図的に生徒を振り分けることはしない。

※S2の目的は、本時の主題である「国際理解」に焦点を当てること。

以下は、CD-Rの内容をご覧ください。

赤十字の心を伝えた三上剛太郎から人道を学ぶ

対象学年 高等学校2年

地理歴史 日本史 特別活動 総合学習

都道府県名：青森県

作成者氏名：滝尻 善英

所 属：県立八戸高等学校

主題について

本州最北の地、青森県下北半島において代々、医師として村の保健衛生に尽くしてきた三上家の八代目当主剛太郎は、日露戦争の際、敵味方分け隔てなく看護したことから世界の人々から尊敬されている。佐井村に帰っては、村民の保健衛生、学校教育の振興に貢献したとして名誉村民として讃えられ、その業績は広く伝えられている。この剛太郎の生涯を道徳的見地からとらえさせ、人道について考えさせる。

ねらい

人道についての授業や郷土の人物を授業で展開する場合、依拠すべき教科書が欠けているため、教師自身の深い研修と専門性が要求される。教材を適切な形に精選・提供し、興味関心を引きつけるとともに、日本史は暗記科目という固定観念を捨て去り、歴史をみる眼を養っていく。

指導の計画

小单元「日露戦争」 2時間の内の2時間目（1コマ55分 本時2／2）

展開

導入（10分）

グループに分かれ、プリントの中から苦痛とを感じる項目のベスト3を選ぶディスカッションをさせる。その中から「人間の苦痛を予防・軽減し、生命の尊厳を確保する」という赤十字の基本的理念を導き出す。

展開（40分）

- 1 赤十字の里づくりを目指す佐井村 *佐井村の位置を確認する（5分）
村をあげて「赤十字の里」づくりとして青少年の育成にあたっている。
- 2 三上剛太郎を知る
 - (1)『赤十字の心～三上家資料目録～』で三上家と剛太郎の関わりを知る（5分）
 - (2)紙芝居でおおまかな解説をする（5分）
 - ①表紙・赤十字の心を伝えた医師三上剛太郎 ②友を救う少年期の剛太郎 ③東京に旅立つ剛太郎 ④新聞社で働く剛太郎 ⑤医者になった剛太郎 ⑥日露戦争で中国へ ⑦ロシア騎兵隊の攻撃 ⑧不安とひらめき・赤十字旗を作る剛太郎 ⑨包帯所の前に掲げられた手製の赤十字旗 ⑩ロシア兵を見送る剛太郎と日本兵 ⑪赤十字マークの三上ボート・郷里での往診活動 ⑫世界の宝・ジュネーブ国際博覧会に展示される手製の赤十字旗 ⑬学び続けた剛太郎 ⑭佐井村アルサスに建てられた銅像
 - (3)VTRのアニメで人道に生きた剛太郎の生涯を理解させる（25分）
 - ①日露戦争場面 ②医薬品が尽きて負傷兵が亡くなる場面 ③幼き日の思い出と蓑虫山人の場面 ④手製の赤十字旗がはためく場面 ⑤日本兵がロシア兵を見送る場面 ⑥帰村し、医療に尽くす場面、三上ボートで往診する場面 ⑦国際博覧会に展示される赤十字旗の場面
 ①～⑦をポイントに解説をする。今日その手製の赤十字旗は日赤青森県支部資料室に保管され、八戸赤十字病院の受付に複製写真が飾られている。
- 3 三上剛太郎の生涯についての感想（5分）
資料・紙芝居・VTRを見て考えたこと、感じたこと話し合わせる。グループごとに感想を述べさせ、人間の尊厳に立ちかえり、ディスカッションを締めくくる。

まとめ（5分）

佐井村の赤十字の里づくり活動は三上剛太郎の生き方を中心に赤十字精神の「人道」に基づく実践であり、今日の青少年に奉仕する喜びや生命の尊厳、そして異文化に対する理解を持たせるための活動である。戦争の悲惨さの中に、一条の光明のような剛太郎の人道的行動、それにつながる赤十字の理念についてまとめると共に郷土の先人の偉業を知ることの大切さについて理解させる。



（三上剛太郎の赤十字旗）

災害時、私たちにできること

対象学年 高等学校 1～3年

特別活動 総合学習 その他(学年集会等)

都道府県名：千葉県

作成者氏名：長谷川 暁

所 属：県立白井高等学校

主題について

生徒は身近に震災発生の可能性が高いと認識している。一方、実際に震災がおこること、自分のおかれる状況や自分がやれることの自覚は低い。防災の知識、自分が準備すべきことを学ぶことは、「いのちを守る教育」につながる。震災を知り、状況をイメージし、防災の知識を得て、救済の技術（救急法など）を身につけることの大切さに気づく。こうした認識が必要だ。このような視点に立ち防災の知識と実践をとりあげる。

ねらい

震災のメカニズム、震災の状況を知ることにより、イメージを身近なものにする。そのうえで、自分にできることを考えさせ、実践を通じてその大切さを認識させる。とくに、震災時には学校などが避難所になることを知ることにより、そこで繰り広げられる支援活動に、地域の連携があることに気づかせ、一人一人の役割を意識させる。

指導の計画

時限	学習活動	指導事項	教材・資料等
第1時	・災害意識アンケート ・地震が起こるメカニズムの学習 ・地震が起こった場合の状況理解学習	・意識アンケートを通じ意識確認 ・地学教材による地震のメカニズムを理解 ・防災活動の理解	アンケート内容 ◆将来自分が災害に遭うと思っている ◆日頃災害情報に注意している ◆地域の防災訓練に参加している プリント資料・副読本の講読
第2時	DVD視聴 ・災害の状況把握と地域についての理解 ・自分たちができることを考える	DVD視聴を通じて、実際の状況や対策、地域の連携、防災力の必要性を理解させる	DVD「地域防災力がいのちを救う」18分 DVD「東京を襲う大地震」15分 「救急法の基礎知識～備えあれば安心～」 「防災ボランティアになろう」
第3時 第4時	救急法の講習実施 第3時 止血・包帯法 第4時 心肺蘇生法	救急法の基礎知識を身につけさせる 地域との連携をはかる	指導員1～2名 地域奉仕団10名程度 *指導員1～2名で40名の生徒を指導

展開

第2時

所要時間	学習活動の流れ	指導者の留意事項・支援活動
(35分)	DVD視聴 災害の状況把握と地域防災力の必要性について理解する	DVD視聴を通じて、実際の状況や対策、地域の連携、防災力の必要性を理解させる
(15分)	自分たちができることを考える学習 学校が避難所となること 救急法の技術を身につけよう 非常炊き出しについて知ろう	救急法の技術を身につけることの大切さ、非常炊き出しなどの方法を学ばせることにより生徒の意識を高揚させる

学校教育関係者 (青少年赤十字指導者 県勢順)

樋口 美根夫 (山梨県甲府市立里垣小学校)
 中川 雅博 (京都府立桃山高等学校)
 厚東 政人 (山口県美祢市立秋芳南中学校)
 和家 秀樹 (愛媛県西予市立宇和町小学校)
 永野 萌子 (鹿児島県青少年赤十字賛助奉仕団)
 松永 崇利 (鹿児島県霧島市立日当山中学校)

日本赤十字社本社

畑 厚彦 (総務局組織推進部青少年・ボランティア課長)

日本赤十字社本社・各都道府県支部所在地一覧

本社・支部名	所 在 地	電話番号
本 社	105-8521 東京都港区芝大門1-1-3	03-3438-1311
北 海 道 支 部	060-0001 北海道札幌市中央区北1条西5北1条ビル8階	011-231-7126
青 森 県 支 部	030-0861 青森県青森市長島1-3-1	017-722-2011
岩 手 県 支 部	020-0021 岩手県盛岡市中央通1-4-7	019-623-7218
宮 城 県 支 部	981-0914 宮城県仙台市青葉区堤通雨宮町4-17	022-271-2251
秋 田 県 支 部	010-0922 秋田県秋田市旭北栄町1-5	018-864-2731
山 形 県 支 部	990-0023 山形県山形市松波1-18-10	023-641-1353
福 島 県 支 部	960-1197 福島県福島市永井川字北原田17	024-545-7997
茨 城 県 支 部	310-0914 茨城県水戸市小吹町2551	029-241-4516
栃 木 県 支 部	320-8508 栃木県宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ内	028-622-4326
群 馬 県 支 部	371-0833 群馬県前橋市光が丘町32-10	027-254-3636
埼 玉 県 支 部	330-0062 埼玉県さいたま市浦和区仲町3-2-23	048-829-2681
千 葉 県 支 部	260-8509 千葉県千葉市中央区千葉港4-1	043-241-7531
東 京 都 支 部	169-8540 東京都新宿区大久保1-2-15	03-5273-6741
神 奈 川 県 支 部	231-8536 神奈川県横浜市中区新山下3-12-1 横浜市立みなと赤十字病院 5階	045-628-6306
新 潟 県 支 部	951-8127 新潟県新潟市中央区関屋下川原町1-3-12	025-231-3121
富 山 県 支 部	930-0859 富山県富山市牛島本町2-1-38	076-441-4885
石 川 県 支 部	920-8201 石川県金沢市鞍月東2-48	076-239-3880
福 井 県 支 部	918-8011 福井県福井市月見2-4-1	0776-36-3640
山 梨 県 支 部	400-0062 山梨県甲府市池田1-6-1	055-251-6711
長 野 県 支 部	380-0836 長野県長野市南県町1074	026-226-2073
岐 阜 県 支 部	500-8601 岐阜県岐阜市茜部中島2-9	058-272-3561
静 岡 県 支 部	420-0853 静岡県静岡市葵区追手町44-17	054-252-8131
愛 知 県 支 部	461-8561 愛知県名古屋市東区白壁1-50	052-971-1591
三 重 県 支 部	514-0004 三重県津市栄町1-891	059-227-4145
滋 賀 県 支 部	520-0044 滋賀県大津市京町4-3-38	077-522-6758
京 都 府 支 部	605-0941 京都府京都市東山区三十三間堂廻り町644	075-541-9326
大 阪 府 支 部	540-0008 大阪府大阪市中央区大手前2-1-7	06-6943-0705
兵 庫 県 支 部	651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-4-5	078-241-9889
奈 良 県 支 部	630-8133 奈良県奈良市大安寺1-23-2	0742-61-5666
和 歌 山 県 支 部	640-8137 和歌山県和歌山市吹上2-1-22	073-422-7141
鳥 取 県 支 部	680-0011 鳥取県鳥取市東町1-271	0857-22-4466
島 根 県 支 部	690-0873 島根県松江市内中原町40	0852-21-4237
岡 山 県 支 部	700-0823 岡山県岡山市北区丸の内2-7-20	086-225-3621
広 島 県 支 部	730-0052 広島県広島市中区千田町2-5-64	082-241-8811
山 口 県 支 部	753-0094 山口県山口市野田172-5	083-922-0102
徳 島 県 支 部	770-0044 徳島県徳島市庄町3-12-1	088-631-6000
香 川 県 支 部	760-0017 香川県高松市番町1-10-35 香川県社会福祉総合センター内	087-861-4618
愛 媛 県 支 部	790-8570 愛媛県松山市一番町4-4-2 (県庁内)	089-921-8603
高 知 県 支 部	780-0850 高知県高知市丸ノ内1-7-37	088-872-6295
福 岡 県 支 部	815-8503 福岡県福岡市南区大楠3-1-1	092-523-1171
佐 賀 県 支 部	840-0843 佐賀県佐賀市川原町2-45	0952-25-3108
長 崎 県 支 部	850-8575 長崎県長崎市魚の町3-28	095-821-0680
熊 本 県 支 部	861-8039 熊本県熊本市長嶺南2-1-1	096-384-2111
大 分 県 支 部	870-0033 大分県大分市千代町2-3-31	097-534-2236
宮 崎 県 支 部	880-0802 宮崎県宮崎市別府町3-1	0985-22-4045
鹿 児 島 県 支 部	890-0064 鹿児島県鹿児島市鴨池新町1-5	099-252-0600
沖 縄 県 支 部	900-0024 沖縄県那覇市古波蔵3-7-25	098-835-1177

『青少年赤十字指導案集 CD版 すぐに役立つ108』

平成21年 3 月31日初版発行

発行元 日本赤十字社 総務局 組織推進部 青少年・ボランティア課

住 所 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3

電 話 03-3438-1311(代表) ホームページ <http://www.jrc.or.jp>

検索キーワードリスト 以下のキーワードから、指導案が検索可能です！

世界を学ぶ	赤十字の原則、マーク	国際人道法	教材・資料
1 円玉募金 UNICEF・ユニセフ 衣食住 井戸 医療活動・保健活動 医薬品 衛生・不衛生 海外青年協力隊 開発協力 開発途上国 環境 感染症 飢餓 義手・義足 救援物資 給食 給水 強制移動 強制収容所 漁業 クラスター爆弾 交流・国際交流 国際救援・国際活動 国際社会 国際理解 国連・国際連合 国籍 国旗 国境 子ども兵・少年兵 (child soldier) 作物 差別 識字率 児童労働 食糧 食料自給率 地雷 人口・人口増加 ストリートチルドレン 生活文化 性的虐待 世界がもし100人の村だとしたら 世界子ども白書 世界で生きることもたち 先進国 地球温暖化 地球家族 手紙・トピックアルバム 乳幼児死亡率 農業・農地 非政府団体 (NGO) 貧困 文房具 平均寿命 貿易 募金・募金活動 マザー・テレサ 水・飲料水・水道 民族	7 原則 ICRC (赤十字国際委員会) IFRC (赤十字赤新月社連盟) 人道／Humanity 公平／Impartiality 中立／Neutrality 独立／Independence 奉仕／Voluntary Service 単一／Unity 世界性／Universality 苦痛 軽減 国際赤十字 誤用 ジャン・ピクテ 赤十字・レッドクロス 赤十字国際会議 赤十字社 赤十字の諸原則 赤新月・レッドクレッセント 標章 理念 レッドクリスタル 赤十字のおこり・歴史 有栖川宮熾仁親王 アンリ・デュナン イタリア統一戦争 大給恒 カスティリオーネ 北イタリア 救護団体 苦痛 軍医 軽減 五人委員会 佐野常民 ジュネーブ スイス 杉原千畝 西南戦争 赤十字の旗 ソルフェリーノ 第1次世界大戦 第2次世界大戦 日露戦争 ノーベル賞 ハイデン 博愛社 三上剛太郎 ボランティア／福祉を学ぶ アイマスク (体験) 介護・介助 核家族化 疑似体験 車いす 交流・国際交流 高齢者・高齢社会 声かけ 視覚障害者 シニア体験 社会福祉 弱者 手話 障害・障害者 少子高齢化 清掃・美化活動 地域 地域赤十字奉仕団 知的障害 聴覚障害 デイケア・デイサービス 手紙・トピックアルバム 点字 点訳奉仕団 白杖 白内障体験 バリアフリー ひとり暮らし高齢者 防災ボランティア 訪問活動 募金・募金活動 ブレーン・ストーミング 文化祭 文章化 平和学習 未加盟校 目標 野菜作り リーダー養成 歴史教育 ワークシート ワークショップ 学習発表会 パネル展示・展覧会	海の条約 慣習法・国際慣習法 規制 クラスター爆弾 軍医 軍事行動・軍人・兵士 原子力発電所 攻撃 交戦 拷問 国籍 国境 子ども兵・少年兵 (child soldier) 差別 残虐 児童の権利条約 条約・ジュネーブ条約 傷害 相互主義 地雷 政治的意見 生物兵器禁止条約 前線 戦争 戦争の肯定・否定 戦闘員・戦闘行為 対人地雷禁止条約 (オタワ条約) ダム 追加議定書 敵対行為 投降 毒 特定通常兵器使用禁止制限条約 内戦・内乱 難船者 ハーグ条約 病院船 武器 復讐 負傷者 俘虜・捕虜 紛争・武力紛争 文民の条約 平和 法治国家 保護 民間人 無差別攻撃 野戦病院 陸の条約	Children and War Hello Junior Red Cross ICRC ホームページ IFRC ホームページ アイコと学ぼう赤十字 国際赤十字 国際人道法ワークブック 視聴覚教材 人道法の探求 (EHL) 青少年赤十字機関紙 (ポスター) 青少年赤十字健康安全プログラム 青少年赤十字指導情報 青少年赤十字ハンドブック 世界子ども白書 世界で生きることもたち 赤十字と国際人道法 普及のためのハンドブック 赤十字の諸原則 せきじゅうじってなんだろう？ 赤十字ブックレット 空は世界へ ソルフェリーノの思い出 地図帳 日本赤十字社ホームページ ヘルプマンの大冒険 国際人道法入門 (ビデオ) 災害・防災 救急・救急法 災害救護 (活動) 地震・震災 炊き出し ハイゼックス 阪神大震災 非常食 備蓄 避難所 防災グッズ 防災ボランティア 地名 アジア アフガニスタン アフリカ アメリカ オーストリア カスティリオーネ カンボジア 北イタリア コンボ ジュネーブ スイス ソルフェリーノ ネパール フィリピン フランス ヨーロッパ その他 生きる 一員 命 核家族化 格差 家族 家庭 感謝 基本的権利 強制 共通性・共通点 郷土 恐怖 苦痛 軽減 権利 行動 固定観念 差別 残虐 自主性 時代的背景 主体的 人道的 善意 地域 当事者 はじめの一步 部員 0 普遍性 文化 みんな同じ人間どうし 勇気 友情 労働 出前教室 人材バンク いじめ ジレンマ 第三者